小学校

平　成　15　年　度

教育研究員研究報告書

道　　徳

東京都教職員研修センター

平成１５年度

教育研究員名簿(道徳)

分科会名	区市町村名	学　校　名	氏　　名
第１分科会	新宿区	戸塚第一小学校	田中万千子
	目黒区	碑小学校	都沢弘明
	北区	豊川小学校	○関　祐一
	江戸川区	上小岩第二小学校	高上恵理子
	日野市	平山小学校	伊藤智子
	調布市	布田小学校	小西祐一
第２分科会	文京区	誠之小学校	加藤裕美子
	江東区	東川小学校	木内和子
	江東区	第二砂町小学校	有働大悟郎
	八王子市	山田小学校	井上洋美
	昭島市	光華小学校	○矢澤英輝
	八丈町	大賀郷小学校	半田　勝
第３分科会	墨田区	中和小学校	荒川茂樹
	世田谷区	烏山小学校	坪内良江
	豊島区	巣鴨小学校	○海野初枝
	練馬区	北町西小学校	◎川島直人
	葛飾区	本田小学校	小林憲史
	国立市	国立第七小学校	大澤由紀子
	清瀬市	清瀬第八小学校	真崎容子
第４分科会	品川区	浅間台小学校	山﨑省吾
	大田区	中富小学校	野﨑秀年
	板橋区	北野小学校	吉羽扶美子
	練馬区	豊玉南小学校	○田代玲子
	府中市	府中第六小学校	平賀加代子
	福生市	福生第四小学校	川原清子

◎全体世話人　○分科会世話人

（担当）東京都教職員研修センター　指導主事　内藤　勝義

指導主事　園部　謙一

平成１５年度東京都教育研究員（小学校道徳）

目　　次

児童一人一人が心を動かし、道徳的実践力を高める指導と評価
－　評価の具体的な工夫と活用を通して　－

◇　主題設定の理由 …… 2

◇　研究の概要 …… 3

Ⅰ　＜第１分科会＞（１の視点） …… 4
「様々な感じ方や考え方に触れ、自分を見つめる心を育てる指導と評価」

Ⅱ　＜第２分科会＞（２の視点） …… 9
「互いに伝え合い、共に認め合う心を育てる指導と評価」

Ⅲ　＜第３分科会＞（３の視点） …… １４
「生きている喜びを実感し、生命を大切にする心を育てる指導と評価」

Ⅳ　＜第４分科会＞（４の視点） …… １９
「共に生きるよさを感じ、社会のルールを大切にする心を育てる指導と評価」

◇　研究の成果と課題 …… ２４

平成１５年度東京都教育研究員（小学校道徳）

児童一人一人が心を動かし、道徳的実践力を高める指導と評価
―評価の具体的な工夫と活用を通して―

◇　主題設定の理由

心の教育の充実が求められる今日、児童一人一人が人間としてよりよく生きるために必要な道徳性を主体的に身に付けていくことの重要性がますます強調されている。こうした時代の要請にこたえるためには、道徳教育の要である道徳の時間の充実が重要である。

感動、共感、葛藤などの児童の様々な心の動きは、やがて実際の行動へと結び付いていく。道徳の時間のねらいに基づき児童の心を動かすための工夫をした授業を行うことで、児童の道徳的価値への自覚を深め、生活や行動の中で自己の課題を追い求めていこうとする意欲や態度を育て、人としてよりよく生きていこうとする道徳的実践力を高めることができる。

道徳的実践力を高めるためには、指導と評価の一体化は欠かせない。教師が明確な観点をもち、児童の道徳的な心情や判断力、実践意欲や態度などの変容を的確にとらえ評価し、指導に生かすことが大切である。また、児童が自らの心の成長を実感できるようにするための自己評価を工夫して行わせる必要がある。さらに、指導の過程や成果に対する評価を、道徳の時間をより充実させる糸口として指導の改善に生かすことで、さらに児童の道徳性を養うことができる。

以上の理由から、本研究主題「児童一人一人が心を動かし、道徳的実践力を高める指導と評価　―評価の具体的な工夫と活用を通して―」を設定した。児童の心の動きは自分や他者、自然や崇高なもの、集団や社会などとかかわることで様々な様相を見せ、様々な道徳性を発現させていく。そこで、主題に迫るため、道徳の内容の４つの視点ごとに分科会を設け、それぞれの視点ごとに、より具体的な児童の実態や変容をとらえ指導に生かす指導と評価の工夫に取り組むこととした。

◇　分科会主題

＜第１分科会＞　～　主として自分自身に関すること　～（１の視点）
様々な感じ方や考え方に触れ、自分を見つめる心を育てる指導と評価
―　一人一人の児童を生かした話合い活動を通して　―

＜第２分科会＞　～　主として他の人とのかかわりに関すること　～（２の視点）
互いに伝え合い、共に認め合う心を育てる指導と評価
―　考えを深める表現活動を通して　―

＜第３分科会＞　～　主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること　～（３の視点）
生きている喜びを実感し、生命を大切にする心を育てる指導と評価
―　児童の変容をとらえる道徳学習シートの工夫と活用を通して　―

＜第４分科会＞　～　主として集団や社会とのかかわりに関すること　～（４の視点）
共に生きるよさを感じ、社会のルールを大切にする心を育てる指導と評価
―　体験を想起させる活動を通して　―

児童一人一人が心を動かし、道徳的実践力を高める指導と評価
―　評価の具体的な工夫と活用を通して　―

◇研究の概要

	第1分科会（1の視点）	第2分科会（2の視点）	第3分科会（3の視点）	第4分科会（4の視点）
研究主題	**様々な感じ方や考え方に触れ、自分を見つめる心を育てる指導と評価** （一人一人の児童を生かした話合い活動を通して）	**互いに伝え合い、共に認め合う心を育てる指導と評価** （考えを深める表現活動を通して）	**生きている喜びを実感し、生命を大切にする心を育てる指導と評価** （児童の変容をとらえる道徳学習シートの工夫と活用を通して）	**共に生きるよさを感じ、社会のルールを大切にする心を育てる指導と評価** （体験を想起させる活動を通して）
仮説	**指導の在り方に関して** 児童一人一人の個性を生かした話合い活動が、考えをさらに深めたり、広げたりすることに役立ち、よりよい生き方を見いだすことにつながり、主題に迫ることができる。 **評価の在り方に関して** ワークシートへの記述を内容項目に応じた児童像に照らして評価し、賞賛したり励ましたりすることにより、児童が自分自身のよさや可能性を自覚し、自己を変革しようとする意識を促すことに役立ち、主題に迫ることができる。	**指導の在り方に関して** 児童が自分の思いや考えを素直に表現し、他者のよさや自他の違いを認め高め合う指導方法を工夫することにより、主題に迫ることができる。 **評価の在り方に関して** 児童の実態を多面的・継続的に把握し、児童が自分自身の変容に気付く評価方法を工夫することにより、主題に迫ることができる。	**指導の在り方に関して** 児童の心を揺さぶり感動を与えるような、人間の生き方に関する資料を効果的に提示し、生命のかけがえのなさを実感させる指導を行うことにより、主題に迫ることができる。 **評価の在り方に関して** 道徳学習シートの工夫と活用を通して、児童の心の変容をとらえ、それを的確に指導に生かす評価を行うことで、主題に迫ることができる。	**指導の在り方に関して** 集団や社会とのかかわりを深く考えさせるための体験を想起させる活動を授業の中に取り入れることにより、児童が授業を自分のこととして自分の行動を見つめ直すことができ、主題に迫ることができる。 **評価の在り方に関して** 授業前にねらいとする価値に対する児童の意識をとらえ座席表などに記して授業に活用することで、一人一人の児童の様子や変容を的確にとらえることができ、主題に迫ることができる。
指導と評価の工夫	**指導の工夫** ○話合いの形態の選択の工夫 ○話合い活動でのグループ編成の工夫 **評価の工夫** ○どの時間にも共通する評価の観点の明確化 ○発達段階に応じたワークシートの活用	**指導の工夫** ○心を動かす資料の選定・提示の工夫 ○メモや振り返りカードを活用した多様な表現活動の工夫 **評価の工夫** ○変容を把握しやすい評価の観点の明確化 ○事前から事後まで含めた児童の心や行動の変容の把握の工夫	**指導の工夫** ○生きている素晴らしさを実感できるような学習過程の工夫 ○心を動かす資料選定・提示の工夫 **評価の工夫** ○実態調査も生かす、目指す児童像の明確化 ○自己評価を取り入れた道徳学習シートの工夫	**指導の工夫** ○体験を想起させる多様な学習活動の工夫 ○家庭との連携を生かした励まし・賞賛の工夫 **評価の工夫** ○気付き、振り返り、意欲の高まりのそれぞれに具体的な姿を設定した評価の観点の明確化 ○自己評価を生かす工夫

検　証　授　業
総合的な評価（指導計画・指導方法・児童の変容）

Ⅰ　様々な感じ方や考え方に触れ、自分を見つめる心を育てる指導と評価
―　一人一人の児童を生かした話合い活動を通して　―　（第1分科会／1の視点）

1　分科会主題設定の理由

人間はよりよく生きたいという願いをもっている。このような願いを実現するには、様々な道徳的価値を内面から自覚し、積極的に実践していくことが大切である。しかし、事前に行った自分自身に関する実態調査によると、学年が進むにしたがってほとんどの調査項目で示された価値にかかわる行為を実践できない意識が強まっていく傾向が表れていた。このことから本分科会では「積極的で肯定的な自己像を描き、自分の未来に夢や希望を抱いて、前向きにたくましく生きようとする児童」を育てたいと考えた。

そのような児童を育てるためには、まず、児童が内なる自己との対話をすることが大切である。そこで、本分科会では、主として自分自身に関する内容項目を扱う１の視点の指導に着目した。

人は様々な場面で心を動かしている。例えば、些細な約束でも誠実に守る人の行いを見て感動したり、困難な状況にあっても諦めずに努力した人と出会って感化されたりすることがある。１の視点の指導では、このような心のはたらきを基にして、児童一人一人が資料と出会い、ねらいとする道徳的価値に照らして自分自身の体験を振り返ることを大切にする。そして、その過程において児童に自分自身の課題をとらえさせ、内なる自己との対話をしながら自らの生き方について考えさせようとするものである。

道徳の時間の指導についてはこれまでも、児童の心を育てるため、さらによりよい授業を目指そうと、数多くの実践が積み重ねられ指導と評価の研究が行われてきた。その結果、児童の道徳性を高めるための指導方法や評価方法として様々な手法が開発されてきた。しかし、指導方法の有効性と評価の在り方との関連については、できる限り多くの事例をもとに具体的に検証していくことが大切である。そこで、従来から有効とされてきた手法であるグループでの話合い活動を取り上げ、どのように活用すれば有効性がより高まるのか、児童の道徳性の高まりと指導及び評価の効果との関連を明らかにしたいと考えた。

上記のことから、本研究においては、分科会主題を「様々な感じ方や考え方に触れ、自分を見つめる心を育てる指導と評価」と設定した。指導についての仮説としては、「児童一人一人の個性を生かした話合い活動が、考えをさらに深めたり広げたりすることに役立ち、よりよい生き方を見いだすことにつながって、目指す児童像に迫ることができるのではないか。」と考えた。評価についての仮説としては、「児童のワークシートへの記述をねらいに応じた児童の姿に照らして評価し、児童を賞賛したり励ましたりすることが、児童に自分自身のよさや可能性を自覚させ、自己を変革しようとする意識を促すことに役立ち、目指す児童像に迫ることができるのではないか。」と考えた。これらを道徳の時間の指導を通じて検証していく過程で、指導と評価の一体化を図りつつ、「様々な感じ方や考え方に触れ、自分を見つめる心を育てる指導と評価」の在り方を追究していきたい。

2 研究主題に迫る指導と評価の工夫

(1) 指導の工夫

効果的な話合い活動を成立させるためには、児童の発達段階を十分に考慮し、話合いの形態の選択やグループの編成をすることが有効である。

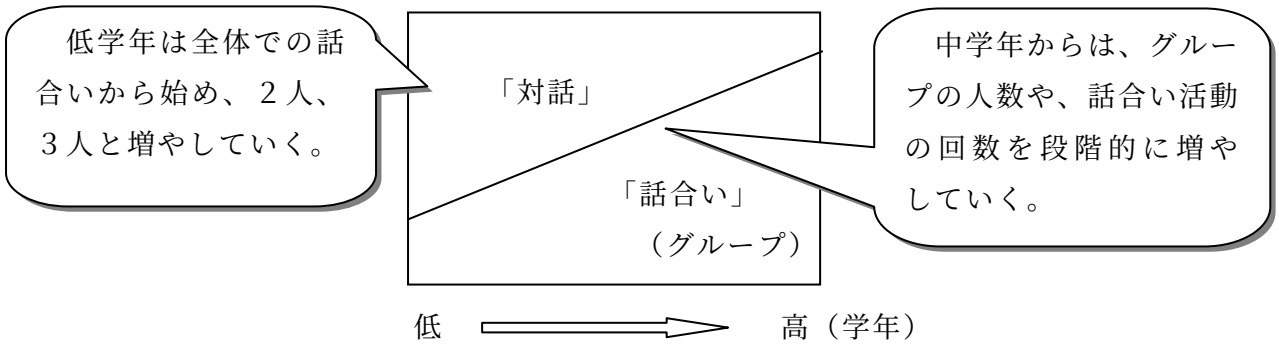
実態把握 → 話合いの形態の選択 → グループの編成 → 話合い活動

そこで、まず、発達段階に応じた話合い活動の工夫を以下のように考えた。

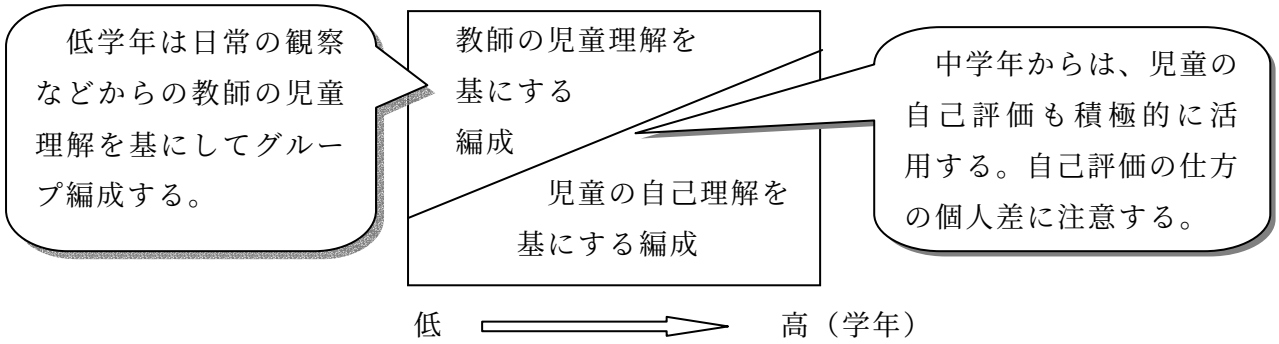
学　年	発達段階に応じた話合い活動の工夫
低　学　年	・担任を中心とする学級全体での話合いを基本とする。
中　学　年	・グループでの話合いを取り入れた指導を増やす。 ・経験などを問うアンケートを実施するが、担任の児童理解を基に、意図的にグループ編成する。
高　学　年	・アンケートの結果から児童の自己理解を基に、いろいろな価値観をもった児童同士で話し合えるようにグループ編成する。

次に、「話合いの形態の選択」と「グループの編成」について、発達段階に応じて以下のように考えた。

ア　発達段階に合わせた話合いの形態の選択　　（図１）



イ　発達段階に合わせたグループ編成の考え方　（図２）



(2) 評価の工夫

評価の工夫として「ワークシート」の作成及び「評価の観点の明確化」に取り組んだ。

ア　ワークシートの活用

学年	発達段階に応じたワークシートの活用
低学年	・展開の後段などでの記述を中心に、自分の体験を振り返ることができたか等を把握する。
中学年	・導入と展開の後段でワークシートを書かせ、その心の変容を教師が把握する。 ・児童自身が自分で書いたワークシートによって、心の変容に気付くことができるようにする。 ※児童が書きやすいよう、具体的な発問の内容にする。
高学年	・導入と展開の後段でワークシートを書かせ、その心の変容を教師が把握する。 ・児童自身が自分で書いたワークシートによって、心の変容に気付くことができるようにする。 ※発問は実践につながるような内容にし、広く自由に考えられるようにする。

イ　評価の観点の明確化

どの時間にも共通する評価の観点を設け、本時のねらいに応じた児童の姿を設定することによって、ワークシートに表れた児童の心を把握し、評価に生かす。

【本時のねらいに応じた観点表の例】

評価の観点	児童の姿		
	低学年１－（３）	中学年１－（３）	高学年１－（２）
自分の体験を振り返る	・よいと思うことを進んで行った体験や行えなかった体験を振り返った。	・やろうと決めたことを最後まで頑張った体験や途中でくじけてしまった体験を振り返った。	・目標を立ててやり遂げた体験や途中でくじけてしまった体験を振り返った。
様々な感じ方や考え方に気付いたり共感したりする	○資料、教師の話、友達の意見などを聞いて・・・、 ・自分の体験を振り返った。 ・自分の意見の参考にした。 ・資料、教師の話、友達の意見などのよさに気付いた。 ・自分の意見のよさに気付いた。 ・新たな意見に気付いた。	・主人公や友達の考えに触れ、自分の体験を振り返った。 ・主人公の考えや行動に共感した。 ・主人公や友達の考えに触れ、自分の考えを深めたり、新しい考えをもったりした。	・主人公や友達の考えに触れ、自分自身の体験を振り返った。 ・主人公の考えに触れ、その生き方に共感した。 ・友達の考えに触れ、新たな自分に気付いた。 ・主人公の生き方に触れ、新たな自分に気付いた。
実践への意欲をもつ	・よいことを進んで行っていきたいと考えた。	・自分でやろうと決めたことは最後までやろうと考えた。	・勇気をもって行動しようと考えた。

・　児童の意識の変容の把握を基にして、本時の児童への賞賛や励ましに生かす。
　また、今後の指導の工夫・改善に役立てる。

３　実践事例

(1) 主題名　困難を乗り越えて＜第６学年　内容１－（２）不とう不屈＞

(2) 資料名　「甲子園の向こう側」＜自作資料＞

(3) ねらい　いろいろな人たちの体験や思いに触れることによって、困難に打ち勝ち粘り強くやり通そうとする心情を育てる。

(4)　展　開

	学　習　活　動	・　指導上の留意点
導入	１　目標を立てたときの経験について話し合う。 ①目標を立てたとき、くじけてしまった経験はありますか。 ・目標に向かってがんばった。 ・いつも２、３日で終わっている。	・目標は達成するためにあることを押さえる。 ・今までの経験を書かせる。 ★ポイント１ ［ワークシートの活用と評価］
展開	２　資料「甲子園の向こう側」を読んで話し合う。 ①お父さんに「やってみんかい。」と言われたとき、曽我君はどんな気持ちだったでしょう。 ・みんなと野球がやりたい。 ・夢に向かって頑張りたい。 ②「うれしくて涙を流すのは初めてです。」と言ったとき、曽我君はどんな気持ちだったのでしょう。 ・自分の夢がかなった。　・甲子園でも頑張るぞ。	・ビデオで高校野球の雰囲気をつかませる。 ・野球を始めたときの気持ちを押さえる。 ・困難を乗り越える時、頑張っているときの気持ちをしっかりと押さえる。 ・グループで話し合う。
	３　自分たちの経験について話し合い、今日の学習から学んだことをまとめる。 ①目標に向かって最後までやり通したとき、どんな気持ちがしましたか。 ・組体操が成功して涙が出るほど嬉しかった。 ②今日の学習で心に残ったことはどんなことでしたか。 ・苦しいことやつらいことに負けないで頑張る。	・児童に自由に語らせる。 ・日常の教師の観察等から児童の不とう不屈に関する行為があれば取り上げて紹介する。 ★ポイント２ ［ワークシートの活用と評価］
終末	４　教師の説話を聞く。 ○曽我君に関する話を紹介する。	・ビデオを見せながら静かな雰囲気の中で学習を終わる。

(5)　評価

○　うれしくて初めて涙を流した曽我君の気持ちを考えることができたか。

※　グループでの話合い活動が曽我君の気持ちを考えることに役立っていたか。

◎　自分の生活を振り返り、目標に向かって頑張ろうとする心情が育ったか。

※　★ポイント１とポイント２でワークシートに記述させ、その変容を把握する。

4　考察

(1)　指導について

実態調査などを参考に価値観の異なる児童が同じグループになるように教師が意図的にグループを編成した結果、話合いは活発に行われた。

～マイカードについて～

①右の図のようなカードを児童一人一人が記入する。

②このカードをもとにAさん、Bさんのようにグラフの形の異なる児童を同じグループとする。

③このカードに加え、教師の観察をグループ編成の参考にする。

（マイカード）　□　◇　○　◎

1 目標に向かって粘り強く取り組む。	Aさん		Bさん
2 目標を達成した喜びを味わったことがある。			
3 スポーツに興味がある。			
4 自分の意見をはっきりと言える。			
5 将来の夢がある。			

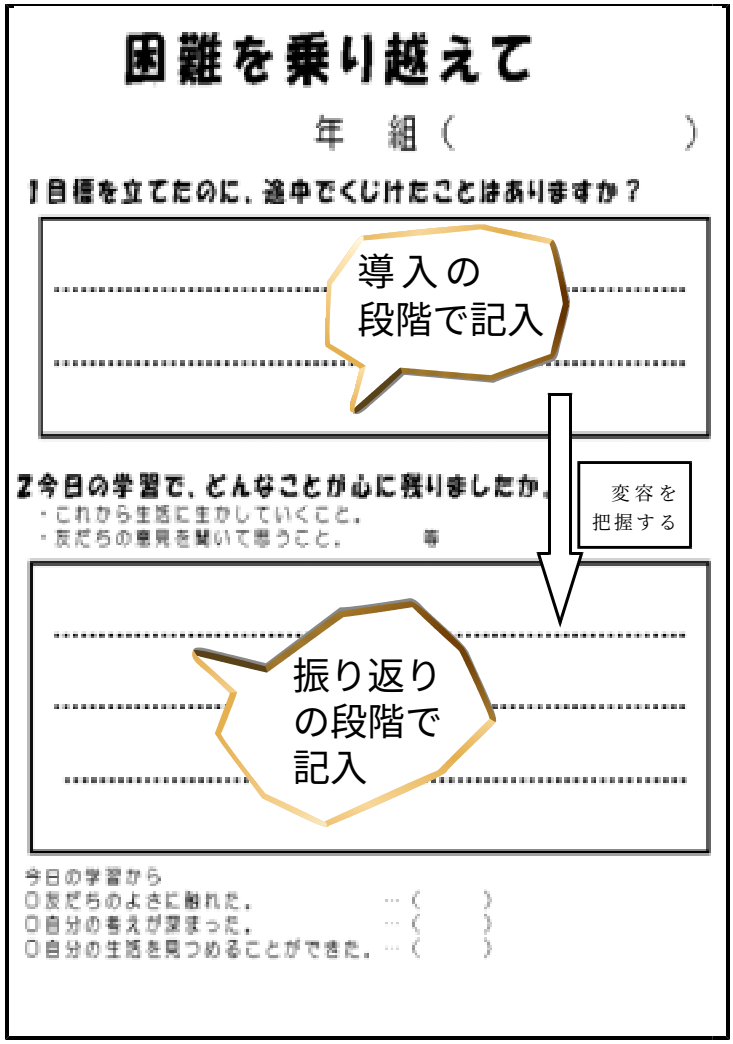
(2)　評価について

（ワークシート）

導入の段階での発問に対して「すぐにあきらめている。」と記述していた児童が、振り返りの段階での発問に対して、「曽我君のように夢に向かってがんばっていきたい。」と記述した。これらの記述内容を観点表（p６参照）の児童の姿に照らしてみると、「目標を立てたが途中でくじけた体験を振り返った。」から、「主人公の考えに触れ、その生き方に共感できた。」へと、変容を読みとることができた。

また、自己評価欄には「自分の考えが深まった。」という項目に丸印がつけられていた。

本時における観点表の設定とワークシートの活用は児童の心の変容を把握するために有効であった。



Ⅱ　互いに伝え合い、共に認め合う心を育てる指導と評価
ー考えを深める表現活動を通してー　(第2分科会／2の視点)

1 主題設定の理由

人間は様々なかかわりの中で生活している。その中で互いの立場や考えを認め尊重していくことが大切であり、それによって望ましい人間関係が育成されていく。

児童の実態をみると、生活全体を自分中心に考える児童も目立ち、他の子を思いやる気持ちを指導する必要があると感じられる。その背景には、児童を取り巻く生活環境の変化により他者との直接的なかかわりが減ってきたことが考えられる。

人間関係を豊かにするためには、子ども同士が互いの気持ちを伝え合い、心を通わせ合える関係が大切である。それぞれの児童がもつ思いや考えを互いに表現し、受け止め、共感したり納得させる機会を数多くもつことである。時に子ども同士で反発し合うことがあっても、そうした指導を通して自他のよさを認めよりよく生きようとする児童が育つと考えられる。

また、一人一人が心を動かすような道徳授業において、児童が表現したり相手の気持ちを受け入れたりしながら生活を見直していくことで、道徳的実践力が高まることにつながると考える。児童自身が本音で語り合えるような指導と評価を工夫していきたい。

そこで、第２分科会では「互いに伝え合い、共に認め合う心を育てる指導と評価」という主題を設定した。評価の観点の明確化とその評価を生かした指導の一体化が道徳的価値にかかわる実践力を高めると考える。

2 研究主題に迫る指導と評価の工夫

(1) 指導の手だて

ア　心を動かす資料の選定・提示

(ｱ) 描かれている場面が身近な資料、登場人物の行為や葛藤が身近な資料を選ぶ。

(ｲ) 人物の心の動きを発問のポイントとし、価値に迫る葛藤場面を設定する。

(ｳ) 視覚的資料を効果的に使用し、読み物資料では、適切に場面絵を用いる。

イ　多様な表現活動

(ｱ) 動作化・役割演技は、児童が自分の考えを深められる活動である。さらに役割を変えることによって、互いの立場での考えを深められる。また、ペープサートなどを使用しても、より登場人物の心情に迫ることができる。

(ｲ) 話合い活動では資料の内容やねらいによって一対一、グループ、ディベートなど様々な形態が考えられる。活動の様子から意図的指名を行い、学級全体の話合い活動を高めていくことができる。日常生活における児童のつぶやきを意識することも大切である。

(ｳ) ワークシートは自分の考えを文章化し改めて整理して考えることができる。このほか、話合い活動における発言の手助けとなる自由記述のための「道徳メモ」、授業を振り返ることができる「振り返りカード」も、効果的に活用する。

(2) 評価の手だて

ア　評価の観点を明確にし、児童の変容を把握しやすくした。

評価の観点	具体的な児童の姿（例）
価値に気付いている	・資料について自分の考えをもち話し合うことができる。 ・授業の展開を板書等で振り返り、ねらいとする価値に気付くことができる。 ・ねらいとする道徳的価値を言葉として知っているだけでなく、改めてその価値のよさに気付くことができる。 ・人間としてのよりよい生き方や、善を志向する感情が芽生える。
心情が深まっている	・友達の思いや考えを受け止め、自分の考えを広げることができる。 ・言葉や文章、動作などを通じ、ねらいとする道徳的価値に照らしながら自分の体験を思い出すことができる。
実践意欲が高まっている	・価値のよさを感じ取ることにより、その価値ある行為をしようとする意欲をもつことができる。 ・価値について共感的に受け止め具体的にどんなことができるか考えられる。

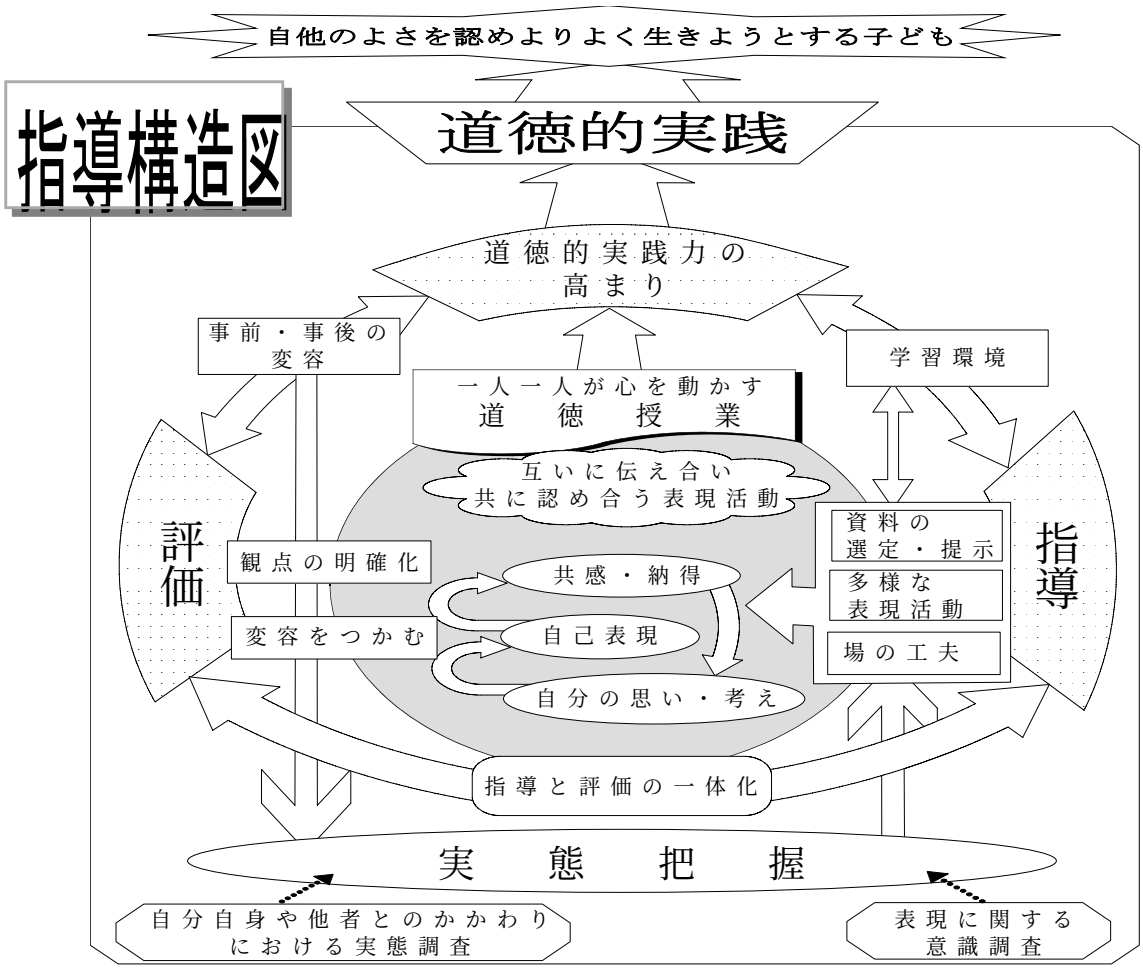
イ　児童の心や行動の変容の把握

(ｱ) 授業における実態把握

・資料にかかわる中心発問と自らを振り返らせる発問での児童の反応で実態を把握する。
・観点に即したワークシートや話合い活動での発言から、児童の実態を把握する。
・児童の発言から次の補助発問､意図的指名などを柔軟に変えていくことも考えられる。
・事前アンケートの結果を記入した座席表を用意し、児童の変容をつかむ。

(ｲ) 事前・事後における児童の変容の把握

・ねらいとする価値にかかわるアンケートを事前と事後に実施する。
・日ごろから作文・日記・朝の会での発表など表現活動に取り組み､児童の変容をつかむ。
・日常的な児童観察の積み重ねにより新たな課題をとらえ、次の指導の手だてを考える。



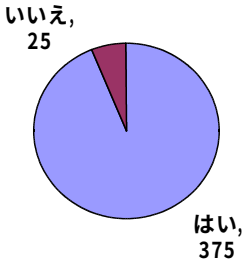
３　実態調査の分析

第２分科会では目指す児童像の実現に向け、まずは現時点での児童が「自分自身や他者との関係」をどのようにとらえているか、また「道徳の授業における表現活動」に対して、どのような意識をもっているかについて、所属校各学年４００名の児童を対象に実態を把握し、分析を進めることとした。

(1)　「自分自身や他者との関係」にはどのような傾向が見られるか。

○友達の意見や考え方に「なるほどと思う」「自分の考えを変えられる」と答えた児童が８～９割を数え、他者に対する受容的な態度や柔軟な姿勢は身に付いているようである。

クラスの人の話を聞いて「なるほど」と思うことがありますか。（択一回答　単位：人）

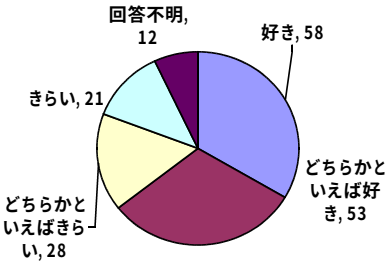


人の意見を聞いて、自分の考えが変わったことがありますか。（択一回答　単位：人）

(2)「道徳の授業における児童の表現活動」についてはどのような傾向が見られるか。

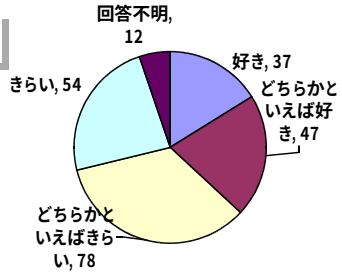
○「道徳の時間」自体を好む児童は全体の８割に上った。しかし「発表」となると、学年による差が顕著となる。７割近くの児童が発表に対して積極的な１～３年生に対し、４～６年生では消極的な児童の割合が６割となる。自己表現への抵抗感が増加することに加え、道徳の授業での発問など学習の展開に関わる課題なども存在すると考えられる。

道徳の時間で発表することは好きですか。（択一回答　単位：人）



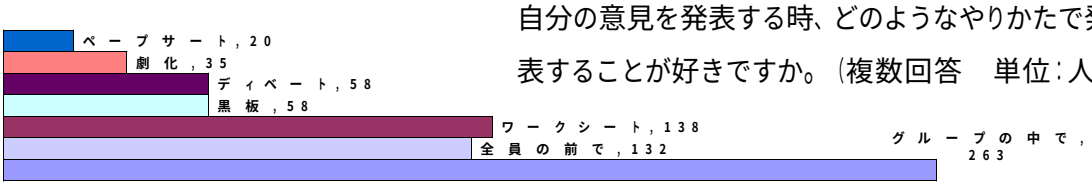
１～３年生

４～６年生



○発表形態については「小グループでの発表」や「ワークシートに書いてからの発表」など、安心して発表できる方法を好む傾向が見られた。教師も子どもが安心して発表できる方法を工夫していくことが大切であると考えられる。

自分の意見を発表する時、どのようなやりかたで発表することが好きですか。（複数回答　単位：人）



4　実践事例

(1)　主題名　本当の友達＜第５学年　２－(3)友情・信頼＞
(2)　資料名　「美佳子さんのなみだ」
(3)　ねらい　互いに相手を尊重し信頼し合って、友達を大切にしようとする心情を高める。
(4)　展　開

	学習活動　主な発問と児童の反応	◆評価の観点　　・指導上の留意点
導入	1　友達について話し合う。	
	みんなが考えている友達とは、どういう人ですか	
	・優しい人 ・困っているとき助けてくれる人	・短時間で話し合い、資料へとつなげるようにする。
展開	2　資料「美佳子さんのなみだ」を聞き、主人公の気持ちを話し合う。	・場面絵を使い、ゆっくり聞かせることで資料への理解を深める。
	美佳子さんが失敗した時、「わたし」はどんな気持ちになったでしょう。	
	・何をやってるの。それでも班長なの。 ・同じ班にならなければよかった。	・簡単に扱う。
	美佳子さんはなぜ泣いたのだと思いますか。	
	・橘さんが優しくしてくれたから。 ・自分が情けなくなってしまった。 ・みんなに悪いと思ったから。 ・みんなに責められたから。	・強く言ったわけでもないのに、美佳子さんが泣いていると言うことは傷ついているということにも気付かせる。
	「おみそ汁は、おいしかったけれども、心の中は、何か寂しい気持ちになった。」のは、なぜですか。「わたし」はどんな気持ちだったからでしょう。	
	・橘さんが美佳子さんを手伝う姿を見て、これじゃ、私が悪者じゃないの。 ・お節介だなあ。 ・橘さんみたいに私も手伝ってあげれば良かったなあ。 ・橘さんはやさしい人だなあ。 ・私だって失敗することもあるから、言いすぎたかな。 ・悪かったな。 ・今度、謝ろう。	・道徳メモ（ｐ１３参照）も活用する。 ・登場人物の心の動きに気付かせる。 ◦橘さんが美佳子さんを手伝ってくれた時の「わたし」の気持ち ◦自分の行動を反省する反面、美佳子さんに対していらだっている「わたし」の気持ち ◦友人の立場を考え、困っている時は助けてあげる橘さんの優しさ ◦美佳子さんが泣いていることに気付いた「わたし」の気持ち ◦すぐに謝ることができない「わたし」の気持ち ◆相手の立場を考えることができたか。
	美佳子さんにやっと謝ることができたとき、私はどんな気持ちになったでしょう。	
	・やっと謝ることができた。 ・もやもやがはれてすっきりした。 ・次はすぐ謝ろう。 ・相手のことを考えていきたいな。	・「わたし」が美佳子さんに謝る場面を役割演技をさせ、心情をより深くとらえさせる。
	3　今までの自分を振り返り、これからの自分について考える。	
	友達がいてよかったなあと思うことはありますか。それはどんなことですか。	
	・給食のおかずをこぼしたとき、一緒にふいてくれた。 ・運動会の組体操の時、友達がいろいろと励ましてくれたので、とてもうれしかった。	・ワークシートに書く。 ・自分を振り返り考えを深めることができるよう時間を確保する。 ・意図的指名を行い友達の考え方や行動の仕方を知り、意識の変容につなげる。 ◆自分の生活を振り返って、相手のことを考え、助け合って明るく生活しようとする姿が見えたか。
終末	4　教師の話を聞く ・教師の話	・子どもたちの生活の中で、友人の大切さについて話す。（保護者からの手紙） ・「友達はいいもんだ」の歌を歌う。

(5)　評価
・相手のことを考え、助け合おうとする気持ちを考えることができたか。
・友達の発言を聞いて、自分の考えを深めることができたか。

5　成果と課題

＜成果＞

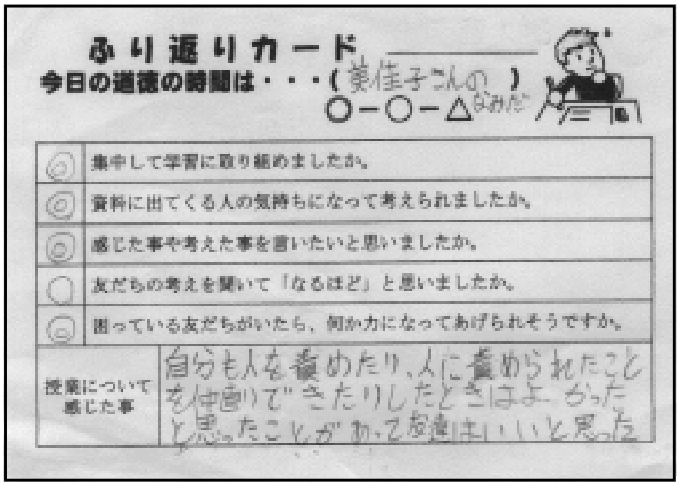
(1)　指導の工夫

ア　発表することが苦手な児童には、自分の考えをまとめたり、友達のよい意見を書き留めたりしておく「道徳メモ」を用意し、発表の手助けとした。また、動作化・役割演技、話し合い活動、ワークシート、道徳メモなどの様々な表現活動を効果的に取り入れたことにより、児童の得意とする活動でそれぞれが自分を表現することができた。

イ　資料で明らかにされていない登場人物の気持ちを役割演技を通して表現することで、資料に対する考えや話合い活動がさらに深まり、追究する価値について深められた。

ウ　価値についての考えをより深める児童の発言を教師が意図的に取り上げ、学級全体に問い返した。それにより児童は友達の考えを改めて受け入れ、それについて自分がどう思ったのかを伝え合い、友達のよさや自分の考えとの違いに気付くことができた。

(2)　評価の工夫



ふり返りカード

今日の道徳の時間は・・・（美佳子さんの　）

○－○－△

◎	集中して学習に取り組めましたか。
◎	資料に出てくる人の気持ちになって考えられましたか。
◎	感じた事や考えた事を言いたいと思いましたか。
○	友だちの考えを聞いて「なるほど」と思いましたか。
◎	困っている友だちがいたら、何か力になってあげられそうですか。
授業について感じた事	自分も人を褒めたり、人に褒められたことを仕事ができたりしたときはよかったと思ったことがあって友達はいいと思った

ア　振り返りカードを活用した自己評価により、児童自身が道徳の時間を振り返り、今の自分を知ることや友達の考えのよさに改めて気付かせることができた。

また、このカードを生かし、友達のよさなどを朝の会で伝えていったことでお互いの信頼関係をさらに深めることができた。

イ　授業での評価は、中心発問における児童の反応と展開後段における日常生活の振り返りのワークシートを中心に行った。事態調査や日常観察から評価する児童を選んでおくことで、一人一人の変容を深く把握することができた。

ウ　児童の日常観察やアンケートを実施するなど事前の実態把握を図ることで、児童が本時の価値をどのように把握しているかをつかめた。また、価値にかかわる観点での児童の実態を記した座席表を作成し、評価に生かした。それらの実態分析を基に資料の選定、授業の展開や発問の工夫をし、児童の多様な考えを引き出すことができた。

＜課題＞

(1)　指導の工夫

児童一人一人の思いを引き出すために多くの表現活動を取り入れたが、活動を精選し児童の気持ちをじっくりと深めた方がよい場合もある。一単位時間の授業で取り上げる表現活動は今後も検討していく必要がある。

(2)　評価の工夫

振り返りカードは効果的であった。さらに児童が継続して取り組んでいくためには、児童にとってとらえやすく、簡単に取り組めるような項目の工夫や精選が必要である。

Ⅲ 生きている喜びを実感し、生命を大切にする心を育てる指導と評価

― 児童の変容をとらえる道徳学習シートの工夫と活用を通して ―（第3分科会／3の視点）

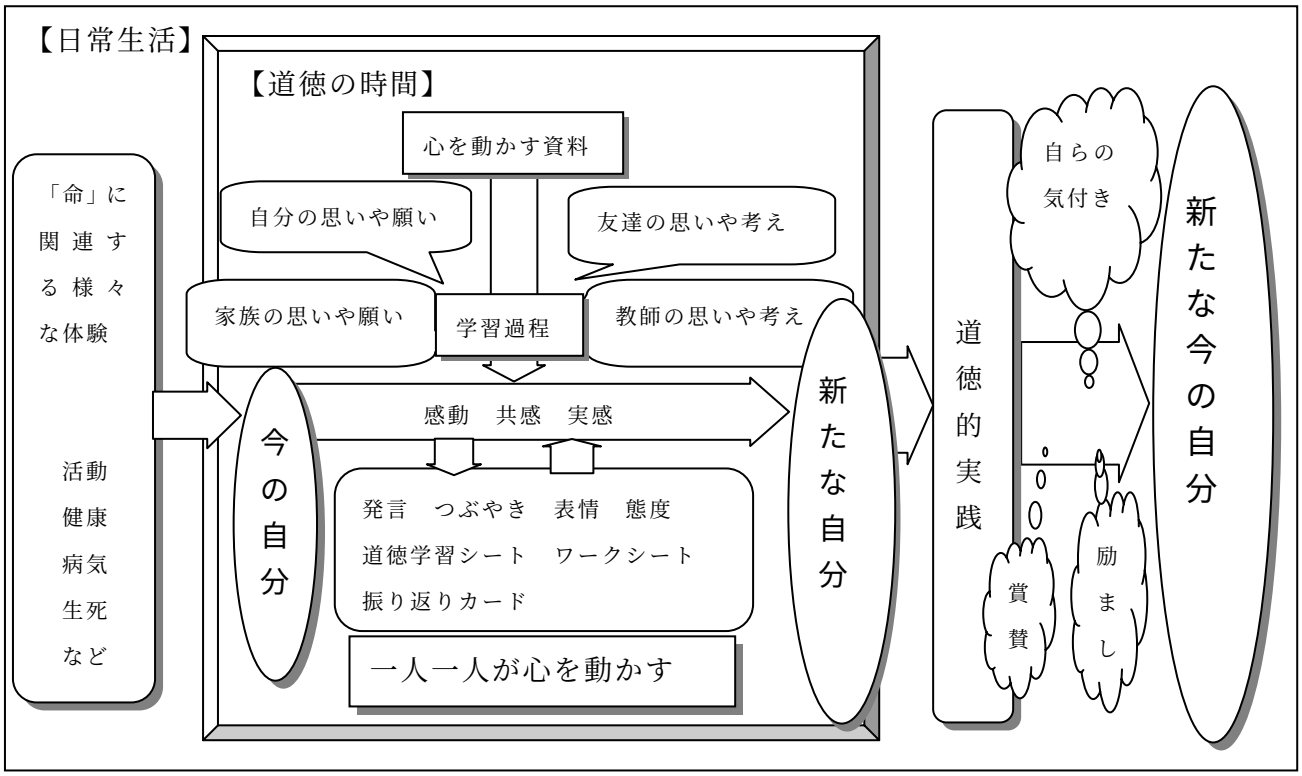
1 分科会主題設定の理由

人は、他の生命とのかかわりの中で支え合って存在している。その生命は、過去から受け継いできたものであり、多くの生命の積み重ねの上に今の自分の生命がある。人の生命はかけがえがなく、一人一人の生命が大切なものである。しかし、中学生による集団暴行事件など昨今の少年犯罪から見ても、そのことがあいまいに受け取られるようになってきている。人間の生命の重みが薄らいできていると感じられる面もある。また、多くの児童は生命を大切だと知っているが、その思いは漠然としている場合が多く、自他の生命を大切にすることを生活の中で具体的に意識して考えようとする児童は少ないように思える。

本分科会では生命の素晴らしさ、生きていることの喜びを実感できる指導をしていくことで、児童が生命というものの深さや広がりに気付き、人間としてよりよく生きていこうとするようになると考えた。そこで、道徳の時間の指導のねらいを特に「３－(2)生命尊重」に絞って研究を進めていくこととし、分科会主題「生きている喜びを実感し、生命を大切にする心を育てる指導と評価」を設定した。本分科会では自分の生命を大切にするということは、思いや考えをもち自分なりに精一杯生きようとすることだととらえた。そして、他人の生命を尊重するということは、その人の生き方を尊く思うことであると考えた。

研究を進めるにあたっては指導と評価の一体化を目指すこととした。実態調査やそれまでの道徳の時間でとらえた一人一人の生命についての思いが、道徳の時間を通してどのように変容するかを、自己の振り返りカードとワークシートを含む「道徳学習シート」を用いることで評価していく。また、そこから改めてねらいに迫るための指導の工夫をしていくことで、指導と評価の一体化を目指すこととした。

2 指導構造図



３　研究主題に迫る指導と評価の工夫

(1)　指導の工夫

ア　心を動かす資料の選定と提示の工夫

(ｱ)　人間の生き方に触れ、感動や驚きを呼び起こすような資料を選定する。

(ｲ)　文章だけでなく写真、映像、実物など多様な表現形式の資料も効果的に使用する。

(ｳ)　児童の興味・関心を喚起でき、心を揺さぶるような資料提示の仕方を工夫する。

イ　生きている素晴らしさを実感できるような学習過程の工夫

(ｱ)　児童が思いを深めるために、感動した場面や感想の交流を図ったり、発問場面の検討や精選をしたりする。

(ｲ)　自己の生き方をじっくりと見つめ直すために十分な時間を確保する。

(ｳ)　家族の思いや願いが書かれた手紙、教師自身の体験談、ＶＴＲによる映像等を活用し、より身近な内容が取り入れられるようにして、生命の尊さや生きることの素晴らしさが実感できる工夫をする。

(ｴ)　資料（展開前段）から、自己の生き方を振り返り、これからの生き方を考える発問等を工夫する。

(ｵ)　児童が資料の世界に自然に入っていき、登場人物の心に共感できるように、動作化や役割演技、体験活動などを取り入れる。

(2)　評価の工夫

ア　実態調査を指導に生かす工夫

(ｱ)　ねらいとする価値に関する児童の意識を事前に把握するために、６月に自由記述式で生命に関する意識調査を行った。９月には調査人数を増やし、選択式で「自他の生命を大切にするためにしていること」についての意識調査を行った。意識調査でとらえた児童の実態を、授業中の意図的な指名や個別指導などに生かしていく。

(ｲ)　授業前に把握した生命に関する意識と、授業後の振り返りカードの記述とを比べて、児童の心の変容の傾向をとらえられる評価のための一覧表（ｐ１６参照）を作成する。

イ　道徳学習シートの工夫

(ｱ)　児童の本音を引き出すとともに、児童が自らの考えを見つめ、深めるために、ワークシートの内容を工夫する。また、資料から児童が感じ取った様々な心の動きを、授業中の発言や表情、つぶやきなどと合わせてワークシートからとらえる。

(ｲ)　授業の中で、児童が自分自身を振り返ることができる振り返りカードを作成する。資料の登場人物の気持ちになって考えることができたか、これからの生き方や生命について考えることができたか、などを観点とした自己評価のためのカードとする。

ウ　目指す児童像の明確化

授業のねらいを明確にし、児童の心のもちようや変容の様子を分類、整理し、とらえていくための目指す児童像（生命尊重にかかわる評価と本時の評価）を明確にする。また、授業で扱う資料によって、観点を絞り、目指す児童像に照らし合わせて本時の評価をしていく。そのことにより、本時の授業内容や児童の変容を振り返り、次の授業での

ねらいをより明確にしたり、個別指導に生かしたりしていく。

※　意識調査や発問等で児童に問いかける際には「生命」を「命」と表現してきた。このことに基づき、本文中の「一覧表」「本時の展開」等の資料の中で、「命」の表現をそのまま使用している。

【児童の変容をとらえる、評価のための一覧表】

№	氏名	A 命のイメージ		B 自他の命を大切にするためにしている事								C	D　本時の評価		
		授業前 実態調査から	授業後 振り返りカードから	実態調査に記述がある…○ 実態調査に特に顕著な記述がある…◎ 授業後の振り返りカードに記述がある…● （本時でねらいたい項目に☆印を付けている。）								主人公の気持ちになって考えたか 振り返りカードから	**道徳的心情**	**道徳的判断力**	**道徳的意欲態度**
				☆ 諦めず頑張る	時間の充実	高齢者等を大切に	家族を大切に	動植物の世話	健康に留意	考えたことがない	その他		（本時のねらい）	（本時のねらい）	（本時のねらい）
													中心発問への反応から	振り返りカードへの記述内容から	
1															
2															

関連

【「生命尊重」の指導での目指す児童像】

	感じる心 **（道徳的心情）**	判断する力 **（道徳的判断力）**	実践しようとする心 **（道徳的意欲・態度）**
わたしの命	・自分の命は大切だと思える。	・危ない場面で、危険を避けようと考えられる。	・病気やけがに注意して健康に生きようという意欲をもてる。
かぎりある命	・命あるものが死ぬのは、悲しいと思える。	・死の場面に接し、命あるものはいつかは死ぬと考えられる。	・時間を大切にし、今を大事に生きようという意欲をもてる。
かけがえのない命	☆自分の命も他の命もかけがえのないものだと思える。	・誕生や生命の危機などの場面に接し、命は尊く、何物にも代えられないと考えられる。	・自他の命を大切にしようという意欲をもてる。
受け継がれる命	・自分の命は、両親から授かった大切なものだと思える。	☆親の思いに触れ、自分の命は自分だけのものではなく、家族にとってもかけがえのないものだと考えられる。	☆授かった命を精一杯生きようという意欲をもてる。
私が生かしていく命	・生きているって素晴らしいと思える。	・困難にも負けず生きている人の姿を見て、自分も頑張りたいと考えられる。	・日々を大切にし、力強く生きようという意欲をもてる。

※　各道徳の時間のねらいに当たる箇所を☆で表す。本表☆は、検証授業のねらいである。

【道徳学習シート】（１８ページ参照）

考えを記録する「道徳学習シート」とともに、その裏面に学習を自己評価する「振り返りカード」を設定した。どれだけ考えられたかの自己評価とともに、自由記述欄も設けた。

4　実践事例

(1)　主題名　　かけがえのない命＜第５学年　３－（２）　生命尊重＞
(2)　資料名　　「誕生」
(3)　ねらい　　命はかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。

(4)　展開

	学習活動　主な発問と予想される児童の反応	◆評価の観点　　・指導上の留意点
導入	1　赤ちゃんの誕生について関心をもつ。 写真を見てどう思いますか。	・生まれて間もない赤ちゃんの写真を見せることで本時の授業への関心をもたせる。
展開	2　資料「誕生」前半を読み、赤ちゃんが誕生した時の母親や父親など周りの人々の気持ちについて話し合う。	・母親が対面するまでの資料を読み聞かせる。
	赤ちゃんに会える時、お母さんはどんな気持ちだったでしょう。 周りの人々はどんな気持ちだったでしょう。	
	母親・早く赤ちゃんの顔を見たい。 ・早く会いたい。 周囲・元気に産声を上げて生まれた。	◆初めて対面する直前の母親の気持ちを想像することができたか。
	3　資料の後半を聞いて母親の気持ちを想像し、学習シートに書いて、発表する。	・母親が対面した後の資料を教師が読み聞かせる。
	生まれた赤ちゃんの命を目にして、母親はどんな思いだったでしょう。	
	・わあ、かわいい。ほおずりしたい。 ・大切に育てたい。 ・自分の子って、こんなにかわいいのだ。この子を産んでよかった。 ・生まれてきてくれてありがとう。	・生まれたばかりの赤ちゃんの様子を想像させる。 ◆母親が子どもの生きる姿を見た喜びの感動にせまることができたか。
	4　資料を読んで命について新たに気付いたことを話し合う。	
	この資料から、命について新しく思ったことはありませんか。	
	・命は一つだから、一生自分を支えてくれるものだから、大切にしなければいけない。 ・命は自分だけのものじゃなくて、家族のものでもあるから、絶対に無駄にしてはいけない。	◆生命のかけがえのなさに気付くことができたか。 ◆授かった命を大切に生きようという気持ちが高まったか。
	5　身近な生活の中から一生懸命がんばって生きている人の姿について思い出す。	・日常の生活の中から「生きていることは素晴らしい」場面を想起させる。
	身近なところで一生懸命がんばって生きている人の姿を見たり、聞いたりしたことはありませんか。	
	・マラソンランナーが、ゴール目指して一生懸命走っている姿。 ・運動会で６年生がタワーを作っていた姿。	
終末	6　家族からの手紙を読む。 みなさんは、一生懸命生きていますか。 みなさんのことを一番よく見ている家族からの手紙があります。心をこめて読んでください。	・一人一人の子どもについての、誕生の喜び、現在の生きている子どもへの思い、将来の子どもへの願いなどが書かれた、家族や周囲の人からの手紙を手渡す。
	7　振り返りカードを書く。	・本時の自己評価をさせる。

(5)　評価

ア　道徳的心情－感じる心

・　人はだれでもかけがえのない生命をもっていると思ったか。

イ　道徳的判断力

・　親の思いに触れ、命は自分だけのものでなく、家族にとってもかけがえのないものだと考えたか。

ウ　道徳的意欲・態度－意欲・態度

・　授かった命を精一杯生きようという意欲がもてたか。

(6)　検証授業の資料から

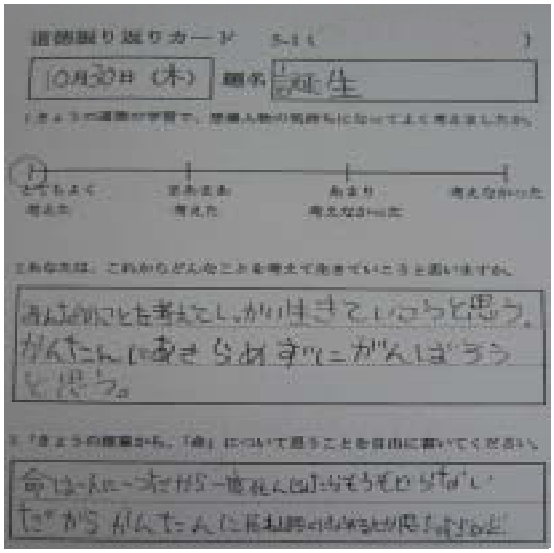
ア　授業風景　　（板書の様子）

（家族からの手紙を読む）

イ　道徳学習シート

表：ワークシート

裏：振り返りカード（自己評価カード）



5　考　察

(1)　指導の工夫について

ア　本授業では資料を前半と後半に分けて提示した。今回はあえて分けて提示することによって、児童に驚きを与えたり、人物の気持ちについて深く考えることができたと考えられる。

イ　家族や周囲の人からの手紙を終末で活用したことの効果が大きく、児童の心を動かし、感動を与える授業であった。日ごろの指導や保護者との連携の在り方とともに、手渡し方などの細かな配慮も大事であることが分かった。

(2)　評価の工夫について

ア「児童の変容をとらえる、評価のための一覧表」については、記述の要点や事前･本時・事後にわたる変容も短時間で把握できる点で有効性が確かめられた。価値概念の順位にどうしても目が向いてしまうなど、改善すべきことはあると思われる。

イ「生命尊重の指導での目指す児童像の表」は、道徳的心情、判断力、実践意欲と態度のそれぞれの側面から意識の実態や変容を把握できた。今後さらに見直し、現実に見合う表現にしていきたい。

Ⅳ　共に生きるよさを感じ、社会のルールを大切にする心を育てる指導と評価
－　体験を想起させる活動を通して　－　(第4分科会／4の視点)

1　分科会主題設定の理由

今日の社会的風潮として、電車内での携帯電話の会話、道路などにおける落書き、迷惑駐輪、ごみの出し方や不法投棄の問題など、社会全体や他人のことを考えず、専ら個人の利害損得を優先させる傾向が指摘されている。このような社会的風潮は児童に大きな影響を与え、児童が本来もっている人間としてよりよく生きようとする意欲も低下させてしまう。一方、児童の側の特徴として、他者とのかかわりがうまくもてず、自己中心的になったり、殻に閉じこもってしまったり、攻撃的になってしまったりする傾向が見られる。

こうした現在の児童をとりまく状況や児童の実態から、社会や集団とのかかわりについての指導の在り方を改めて見直す必要がある。そこで本分科会では、主として集団や社会とのかかわりに関する４の視点に着目し、「社会や集団の一員としての自覚をもち、社会のルールを大切にする児童」を育てたいと考えた。

中でも社会生活上の約束やきまりの意義に気付かせ、公徳心をはぐくんでいく指導が大切であると考え、内容項目を絞って研究を進めることにした。約束やきまりは単に守るためにあるのではなく、「みんなが気持ちよく過ごせるようになる」ために存在することを明確にとらえさせたい。さらに、集団の一員としてよりよく生きるために存在することに気付き、態度として表れるようになってほしいと考えた。

また、こうした児童像に迫るためには、全教育活動の中での交流体験など、人とのかかわりの活動を想起させる場面を道徳の時間の中に意図的に設定していく必要があると考えた。そのために、今までの社会体験や生活体験が想起できるような資料の選択・活用・提示など児童の心を動かす指導の工夫を行うとともに、励まし賞賛し、児童の変容に結び付く評価の工夫を行っていくことが大切であると考えた。

以上のことから本分科会では、分科会主題「共に生きるよさを感じ、社会のルールを大切にする心を育てる指導と評価」を設定した。指導と評価の一体化を念頭に置き、児童一人一人が心を動かすことができる充実した指導を行うための評価の工夫と活用を中心に研究を進めることにした。

2　実態調査の考察

○　学年が１年～６年と上がるにつれて、「約束やきまりを守っている」と答える割合が減ってくる。
○　守っている理由としては「みんなの迷惑になるから」「気持ちがいいから」「おこられるから」「自分のため」など。きまりを守れない理由としては「面倒だから」「忘れるから」「自分だけはいい」「遊びたいから」などの意見が目立った。

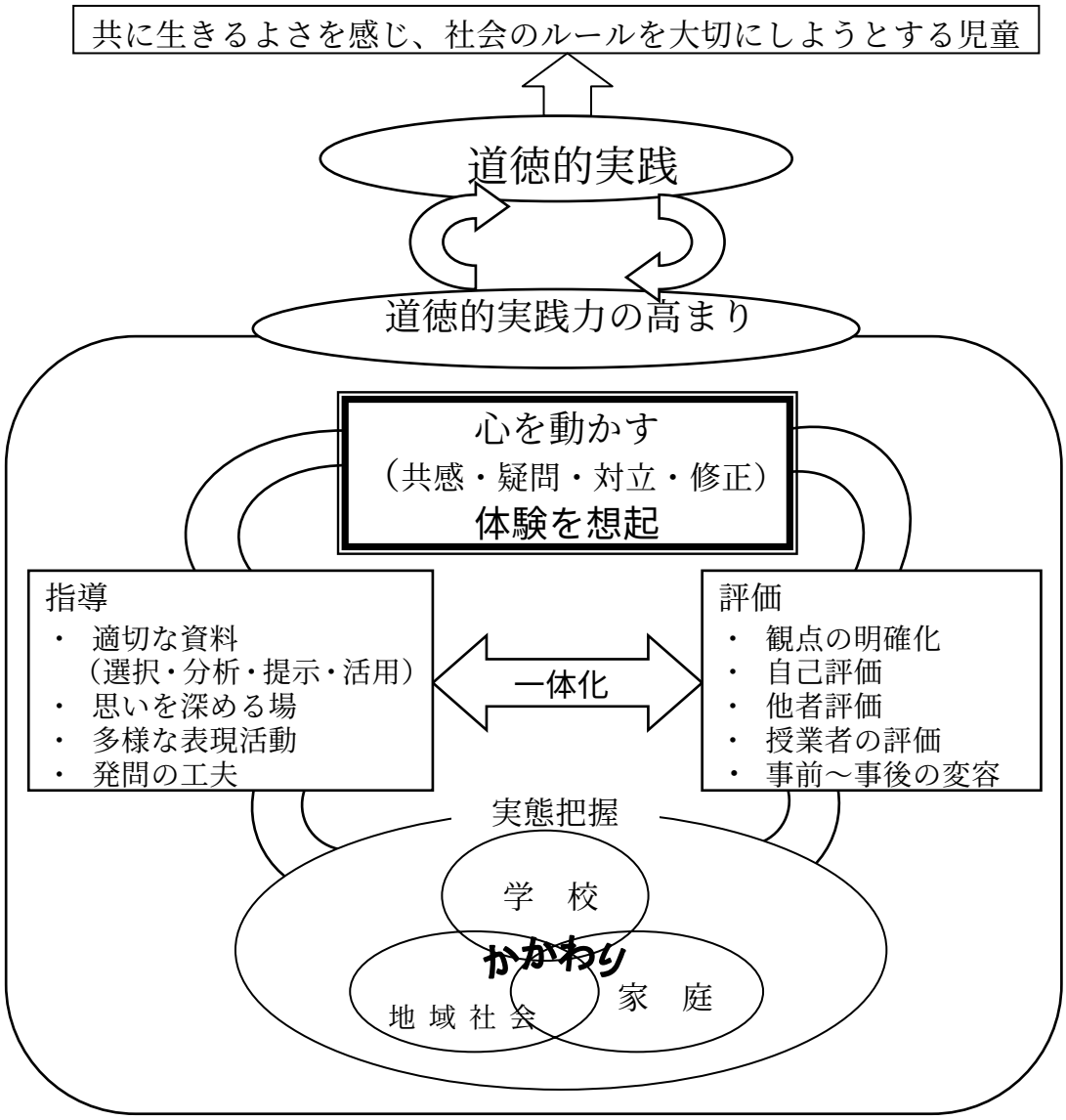
↓

①　約束やきまりを守ることは学年が上がり、生活が広がるにつれて範囲も大きくなる。そのため、どこまでがきまりでどの程度大切にするかという基準が複雑になってくる。
②　約束やきまりを守れない児童は、他人任せにしたり、約束やきまりの関心が薄かったり、自己中心的な考えをすることが多い傾向にある。守っている児童でも低学年では「おこられるから守る」という消極的な意見が目立ち、高学年では「自分のために守る」と「自分が困らなければいい」という傾向が見られた。

↓

集団や社会の一員として気持ちよく過ごすためには、約束やきまりの意義に気付かせ、様々な場面を取り上げ、自分の体験や行動を振り返って考えさせる指導が大切である。

3　指導構造図



4　研究主題に迫る指導と評価の工夫

(1)　指導の工夫

○　道徳の時間の指導で考えられる工夫

ア　資料選択 資料分析 資料提示 資料活用	・児童の実態に合わせた資料選択（事前アンケート等の活用） ・様々な道徳的な価値との関連、段落毎の登場人物の心情の分析 ・視聴覚機器による提示、資料名の提示から中心資料へ ・心のノート、説話で使用する書物・記録物等
イ　発問の工夫	・話合いを活発にさせる発問（意図的指名、多様な意見を引き出す発問の工夫）
ウ　指導と評価の一体化	・ワークシートの活用 、日常生活の中での振り返りカード等で ・座席表の活用（事前アンケートの結果、発言記録等） ・他教科での評価も参考にして児童全員の考えを把握
エ　多様な学習活動	・動作化 ・役割演技 ・ゲストティーチャー （身近な人たちを招く、映像音声による） ・話合い活動（全体・グループ） ・ワークシート 体験を想起させる学習活動の工夫
オ　励まし・賞賛	・道徳的価値に対しての行動意欲の喚起 ・グループの話合いによる相互評価 ・家庭・地域の方々からの手紙・評価 家庭との連携を生かした学習活動の工夫

・その他､交流体験等で人とのかかわりを増やす学習も併せて他教科･領域でも考えていく。

(2)　評価の工夫

○　評価の観点

評　　価	具体的な児童の姿（例）
ア　ルールの大切さに気付いている。	・資料を通して社会のルールの大切さに気付く。 ・授業の中での友達の発言や話合いから、自分の考えをもつ。
イ　自分の体験を振り返って考えている。	・登場人物の気持ちをより深く考えることができる。 ・自分の体験を振り返ってワークシートに書こうとする。 ・友達の考えを受け止め、新たに自分の考えを見つめ直し、 ねらいとする価値を改めて自覚する。
ウ　実践意欲が高まっている。	・ルールの大切さを感じ、自分ができること、また他者と協力してやっていけること等、身近なことから具体的に考えられる。 ・身近なことから今すぐにでも実践したい、また実践していこうと呼びかけられる。

5　実践事例

(1)　主題名　　みんなの場所をきれいにしたい

(2)　資料名　　ふくらんだリュックサック〈第６学年　４－(2)公徳心、遵法、権利・義務〉

(3)　ねらい　　社会のルールを守り、公共の場所を大切にしようとする心情を育てる。

(4)　展開

	学習活動　（主な発問と予想される児童の反応）	◆　評価の観点　・　指導上の留意点
導入	1　富士山のごみ問題について考える。	・富士山の写真を提示する。 〔指導の工夫ア〕
展開	2「ふくらんだリュックサック」を読んで話し合う。	◆資料について、自分の考えをもちながら読むことができたか。
	山頂で人が集まっているところから離れてすわった「わたし」は、どんな気持ちだったでしょうか。	
	・ごみがいっぱいで汚い。 ・人のことを考えない若者はいやだな。 ・空気まで汚れているようだ。 ・来なければよかった。	・山が登山者やごみで以前とすっかり変わったことに驚き、来たことを後悔し腹立たしく思っている気持ちに共感させる。〔指導の工夫イ〕
	親子の会話を聞きながら、「わたし」はどんなことを思ったでしょう。	
	・えらいなあ。 ・腹をたてていただけで、何もしようとしなかったのはいけない。 ・ごみを一つでも持ち帰ればごみは減る。 ・わたしもごみを拾おう。 ・すすんでごみを拾って山をきれいにしよう。	・ごみを拾うことは、簡単そうでもなかなかできないことに気付かせる。 ・自分もごみを拾おうとした「わたし」の心の変容に気付かせる。〔工夫イ〕 ◆「わたし」の気持ちを深く考えることができたか。〔評価の観点ア〕 ・実態調査と比べ心の変容があったか。〔指導の工夫ウ〕
	山の風をここちよく感じた「わたし」はどんなことを考えていたでしょう。	
	・ごみが片付いてすっきりした。 ・山がきれいになって、気持ちがいい。 ・さわやかだ。	・山をきれいにした後の気持ちよさを感じさせる。〔指導の工夫イ〕
	3　自分の体験を振り返り、自分を見つめる。	
	ルールを守り、公共の場を使ったことはありますか。その時はどんな気持ちでしたか。	
	・図書室で本をそろえてよかった。 ・そうじをして学校がきれいになってよかった。 ・校庭が危なくないように石拾いをして気持ちがよかった。	・ワークシートへの記入を基に体験や気持ちを振り返り、追求した価値との結び付きをとらえるようにする。〔指導の工夫イ、ウ〕

		◆価値に関する自分の体験を振り返ることができたか。〔評価の観点イ〕
終末	4　保護者や周囲の人からのメッセージを紹介する。	・児童ががんばったことへの保護者からの励ましを紹介し、実践意欲を高める。〔指導の工夫オ〕 ◆進んでルールを守ろうとする意欲をもつことができたか〔評価の観点ウ〕

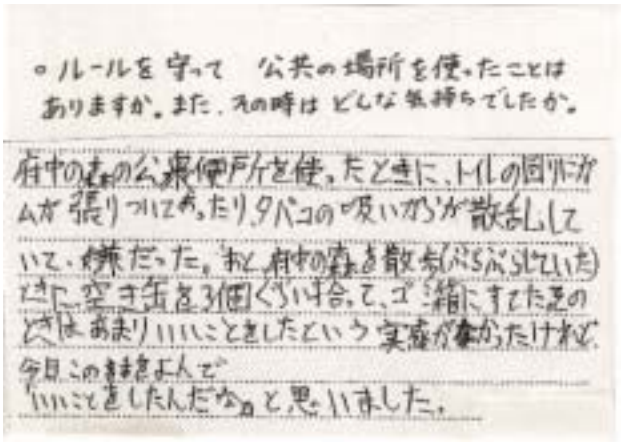
(5)　評価　　・山で親子の会話を聞きながら「わたし」が思ったことについて深く考えることができたか。

・ねらいとする価値にかかわる自分の体験を想起することができたか。

6　検証授業の資料から

授業風景

ワークシート



○ルールを守って　公共の場所を使ったことはありますか。また、その時はどんな気持ちでしたか。

旅中のある公衆便所を使ったときに、トイレの回りがムが張りついてあったりタバコの吸いがらが散らしていて、嫌だった。おと旅中の森を散歩(ぶらぶらしていた)したら空き缶を3個くらい合って、ゴミ箱にすてたあのときはあまりいいことをしたという実感がなかったけれど今日このまま家よんで「いいことをしたんだな。」と思いました。

7　考　察

(1)　指導の工夫について

ア　集団や社会とのかかわりに関する「４の視点」を扱うにあたっては、特に資料の選定が重要である。学校行事などで児童が共通に体験した事柄をヒントに資料を選ぶことで、活動にも児童相互の話合いにも深まりが出てくる。

イ　ワークシートや発問では、ポイントを絞り児童の考えが広がるような発問を設定する。考えが停滞したときなどには、自己の体験や以前の思いを振り返らせることで、改めて自己を肯定したり、社会やルールについてその価値を自覚したりしていける。

ウ　多様な発言を引き出す発問の工夫が大切である。教師の予期しない反応に対し、そういう反応をしたのはどうしてか、再発問していく教師側の柔軟さも重要である。児童から出された感想を生かすなど、児童がより主体的に自分自身の課題としてとらえる工夫をしていく。それが児童相互のかかわりを増し、深い話合いにつながっていく。

(2)　評価の工夫について

ア　児童の変容や成長は、具体的、客観的な記録の累積でとらえていくことが重要である。

イ　取り上げる道徳的価値について事前の児童の意識調査を行うことは、意図的に指名をしたり、指導と評価を一体化させ並行して行ったりするためにも効果的である。

◇　研究の成果と課題

1　研究の成果

⑴　指導の工夫について

○　ねらいとする価値にかかわる児童の意識の実態を考慮した、話合いグループの異質集団による編成など、発達段階を考慮した話合いの形態を工夫することで、様々な感じ方や考え方に触れさせることができ、考えを深めさせることができた。

○　動作化・役割演技、話合い活動等の学習活動の工夫や、自分の考えをまとめたり友達の意見を書き留めたりするメモ、ワークシート、振り返りカード等の学習資料の工夫により、多様な表現活動を通じて児童一人一人が自分を表現し、ねらいとする価値について深く考えることができた。

○　人生を精一杯生きる人間の姿に触れ、生きる素晴らしさを実感できる資料など、価値への自覚を深める資料の選択と提示の工夫は、大切だということが分かった。

○　体験を想起させることについて、日々の学習で自他を見つめたり書き留めたりすることの蓄積の上で、ねらいとする価値に気付かせるための、児童の発言やつぶやきを生かした発問等の工夫により、児童が自らを振り返って考えることにつながった。

○　保護者や身近な人からのメッセージを活用することで、児童が、生きる喜びを実感したり、自分の行動を振り返ったりすることができ、道徳的実践への意欲を高めることができた。

⑵　評価の工夫について

○　事前の意識調査でとらえた、ねらいとする価値に対する児童の実態を、座席表や評価のための一覧表に記入し生かすことで､授業中の児童の反応やワークシートの記述から、児童の変容をより的確にとらえることができた。

○　ねらいとする価値に応じた評価の観点や目指す児童像を明確にすることによって、児童の意識の実態や変容をより的確にとらえることができるとともに、授業中に一人一人の児童の心の動きに対し、問いかけや賞賛、励ましができた。また、とらえた授業後の実態把握を、次に行う同じ価値項目の指導計画に生かすことができた。さらに、教師自身の授業におけるねらいが明確になり、児童の反応に対してねらいに沿った授業を展開できた。

○　振り返りカードによる自己評価は、児童自身が今の自分を知ることや、教師の指導に対する評価として今後の指導のために生かすという面で、有効であった。

2　今後の課題

⑴　指導の工夫について

話合いの形態、表現活動、資料の選定や提示、価値に迫るための学習過程の工夫など、児童の心を動かすための様々な手だてを、今後も検証し、道徳の時間に有効であるものを分析、精選する。

⑵　評価の工夫について

評価の観点や目指す児童像が的確なものであるかどうか、現時点で検証しきれない面もある。ワークシートの記述などがその観点や児童像にあてはまるかどうかでとらえることの難しさも感じた。児童の心の変容を的確にとらえていくために、さらに実践を積み、検証していく必要がある。

平成１５年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成１５年度　　第３１号

平成１６年1月２１日

編集・発行　　東京都教職員研修センター
所在地　　東京都目黒区目黒１－１－１４
電話番号　０３－５４３４－１９７６

印刷会社名　　勝田印刷株式会社